

2023 すべてのいのちを守るための月間

世界は愛のこもった神の贈り物

「あらゆるものは関係しており、わたしたち人間は、被造物一つ一つに向けられる神の愛によって結び合わされつつ、驚きに満ちた巡礼をともにする、兄弟姉妹として集められています。その愛はまた、兄弟なる太陽、姉妹なる月、兄弟なる川、母なる大地への柔和な情愛によって、わたしたちを一つにしてくれます」

(『ラウダート・シ』 92)



この季節（「被造物の季節」9月1日～10月4日）、教皇フランシスコは、愛によって結び合わされた自然の調和、人々との交わりを味わい、感謝し、賛美することで、愛にあふれる創造主なる神に立ち帰るよう、わたしたちを招いています。

いのちの循環の中にある空気や水、食べ物によってわたしたちの身体は生かされ、神との交わり、人々との交わりの中でわたしたちの魂は満たされます。一方、わたしたちの無関心・無責任によって生ずる悲痛な叫びも聞こえてきます。

わたしたちは今、この時、何を呼びかけられているのでしょうか。

【すべてのいのちを守るための月間とは】

日本のカトリック教会は、毎年9月1日～10月4日に、インテグラル・エコロジーの視点で環境について祈り、考え、行動するよう呼びかけています。これは、世界規模のエキュメニカルな特別月間 Season of Creation (被造物の季節) に加わるもので、2019年11月に来日した教皇フランシスコのメッセージに対する、日本の教会の応答でもあります。

【インテグラル・エコロジー（総合的なエコロジー）とは】

カトリック教会が地球環境に目を向ける際、基盤とするのはインテグラル・エコロジー（『ラウダート・シ』で提唱）です。神と、自然と、社会と、そして自分自身の内面との調和した関係を総合的に追求するものです。

【活動紹介：アジア学院 アジア農村指導者養成学校】

“絶え間ない神の働きは、私たち一人ひとり、そしてすべての者と共にあり、被造物たる私たちが常に新しくしていきます。神の創造の御業に全身全霊であずかる時初めて、被造物の保全を理解しようとすることができるようになるのです” アジア学院初代校長 高見敏弘

2023年に創立50周年を迎えるアジア学院（栃木県）のモットーは「That We May Live Together 共に生きるために」。毎年、国内外から多くの人々が訪れ、世界の平和と社会正義を実現する生き方について多様性の中で学びを深めています。それぞれの独自の文化や言語、宗教を持つ人々が、「食べもの」と「いのち」を大切にしながら有機農業を通して命の糧を得、自給自足のシンプルな生活を行なっています。卒業生たちは、自分たちの住むコミュニティで、様々な課題に直面する人々のニーズに寄り添い、「農村リーダー」として持続可能な農業、環境保護、弱者支援、教育、保健、災害復興、人権擁護など、多くの分野で活躍しています。



治（日本） スタッフ

「研修プログラムの柱の一つである『フードライフ』とは、大自然の中で循環するいのちと多様性を大切に、ともに汗を流しながら土を耕し、本来の栄養ある健康な食べものを作り、料理し、分かち合い、その恵みを日々神に感謝することです。神、人、自然を愛しつつ、食糧主権、気候正義、災害に強い農業など食糧自給の実践を通してともに学び合っています」



エンジェル（インドネシア） 研修生

「私の地域では、除草剤や化学肥料を用いた農業で労力がかからなくなり、収量も増え、一見『楽な』生活を手に入れることができましたが、土壌の構造は破壊され、生物多様性が失われつつあります。また、不法な森林伐採による水不足も発生しています。これらの環境の変化で農民が自身の主食を十分に得られないような状況があります。これまで所属するカトリックの小教区を拠点に、地元の農家や若者と協力し、インテグラル・エコロジーの実践に取り組んできました。アジア学院では、リーダーシップと有機農業のスキルを伸ばし、帰国後は地域の文化遺産の保護にも貢献したいと思います」

グー・ター（ミャンマー） 研修生

「私は牧師で、農村コミュニティの生活を改善するために働いています。私たちの先祖は自然への敬意を忘れずに、自然と共生してきましたが、昨今、他国からのビジネス参入により商品化のための行き過ぎた森林伐採が行われています。地元の人々も自然を思うがままに使うことができるかのような思い違いをし始めています。最近では予測できないような大雨に見舞われたり、土砂崩れも多発しています。私はアジア学院で、自然を回復させる農業、環境保全、地域社会のリーダーシップについてもっと学び、新しいアイデアをミャンマーの故郷に持ち帰りたいと考えています」



振り返りと祈りのためのヒント

1. わたしたちが、被造物とそのいのちを大切にしていない状況にはどのようなものがあるでしょうか。環境的、経済的、社会的な側面など、多角的に振り返ってみましょう。

（参照『ラウダート・シ』第四章 総合的なエコロジー）

2. 「すべてのいのちを守るために」「よりよい未来をひらくために」、どのような役割があなたに与えられているでしょうか。

ともに祈りましょう

すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、
あなたはお造りになったすべてのものを
ご自分の優しきで包んでくださいます。

わたしたちが傷つけてしまった地球と、
この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに
気づくことができるよう、
一人ひとりの心を照らしてください。

無関心を遠ざけ、
貧しい人や弱い人を支え、
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、
わたしたちの役割を示してください。

すべてのいのちを守るため、
よりよい未来をひらくために、
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、
あなたの愛の道具として遣わしてください。

すべての被造物とともに
あなたを賛美することができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

(2020年5月8日 日本カトリック司教協議会認可)

【関連ウェブサイト・参考資料】

回勅
『ラウダート・シ』



「ラウダート・シ」
デスク



ささやかな活動でも結構ですので、
皆様のご意見、取り組みをお聞かせください。右記フォームへ→

